OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ファシズムへの偏流 : ジャック・ドリオとフランス人民党 (1)
Author(s)	竹岡, 敬温
Citation	大阪大学経済学. 2012, 62(1), p. 15-40
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/57104
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ファシズムへの偏流

―ジャック・ドリオとフランス人民党―（1）

竹　岡　敬　温†

はじめに――左翼からファシズムへの移行

1930年代のフランスの政治史は，左翼と右翼が激しく対立し，たがいに力を競い合った時代であった。全国在郷軍人連合（UNC）から極右諸同盟（アクシヨン・フランセーズ，火の十字架団，愛国青年同盟，フランス連帯団など）までのあらゆる右翼組織が政府と議会に反対するデモを組織し，ブルボン宮（下院）を襲撃しようとして起こした1934年2月6日の暴動は，1871年のパリ・コミューン以後，パリの街頭でおこなわれたもっとも血なまぐさい遭遇戦であり，1930年代フランスの政治危機の頂点を示す事件であった。この暴動は，左翼の人間の集合意識のなかに，共和制を転覆させるための「ファシストの陰謀」であるとの確信を定着させ，その確信はその後の左翼勢力の行動に決定的な影響をあたえ，左翼勢力の結集を促し，やがて「人民連合」の結成をもたらして，2年余後の1936年6月には，反ファシズムを標榜する人民戦線政府が成立した。しかし，その人民戦線も，人民戦線政府が恐慌とそれにつづく不況を終わらせようとして試みた経済・社会政策の不成功と，人民戦線を形成する諸勢力の内部的対立のためにやがて崩壊に向かったが，人民戦線にたいする報復を完成させたのは，第2次世界大戦におけるフランスの完全な軍事的敗北の混乱のなかで，第3共和制を廃止し，自由と民主主義の原理を誇りにしてきた共和主義精神の70年間の歴史を葬り去った新しい体制，ヴィシー政権を国民に押しつけた1941年7月10日の上院・下院合同の国民議会の決定であった。

このような左右の激しい対立によって揺れ動いた1930年代フランスの政治史の動きのなかで，左翼から右翼に転向し，ヴィシー体制下では積極的に対独協力活動を展開した人物がすくなからず存在した。かれらは1930年代初めには左翼政党のなかで重要な位置を占める人物であったが，10年後には，対独協力集団に属し，ヒトラーの唱える「新秩序」のもっとも活動的な信奉者となった。そのような人物のなかで，おそらく，もっとも代表的な人物は，ジャック・ドリオであろう。1934年にはだれよりも早く反ファシズム勢力の結集を提唱し，その運動の先頭に立とうとした左翼の人間が，それにもかかわらず，なぜ，ヒトラーと協力するまでになったのか。

ジャック・ドリオは1923年からフランス共産党青年部の書記長をつとめた同党の希望の星であり，1934年には，反ファシズム運動を先導する同党下院議員として，フランス共産党を新しい戦術に引き入れようと努力したが，同党との関係断絶後，1936年6月に，この時代のフランス政界の新しい活動領域において重要な位置を占める運動組織，フランス人民党（Parti populaire français, PPF）を創立した。本稿は，まずなによりも，このようなジャック・ドリオがたどった道程を再現し，対独協力にいたるその行程がどの程度ドリオの政治的過去に由来し

† 大阪大学名誉教授

ているのか，また，どの程度，ドリオと共産党との関係断絶とかれが創立した新しい運動組織が，この時代のフランスの左翼政党と政治システムの危機を示すものであったかをあきらかにし，さらに，左翼の人間たちのファシズム化の過程，その軌道をあきらかにすることを目的にしている。そして，このような観点から，フランスにおけるファシズムの問題に取り組むことによって，多くのファシズム運動について認めることのできる左翼とファシズムとの合流という現象の意味をあらためて問いただすことになろう。

両大戦間のヨーロッパでは，革命的な社会主義から転じ，「ファシズム」の創案者となったムッソリーニの例が示すように，元左翼の人間がファシズムの強い影響を受けたり，ファシストになったりしたのは，フランス特有の現象ではなかった。元イギリス労相で1932年に「ファシスト・イギリス連合」を創立したオズワルド・モーズレーは，おそらくそのもっとも顕著な例であろう[1)]。しかし，ムッソリーニの例以外，全体としては，その現象は周辺的であり，ヨーロッパの大多数のファシズム運動の指導者は右翼から出て来た。それはとりわけナチズムについて真実であり，その指導者たちには元左翼の人間はみられなかった。下部の活動家たちのレヴェルでは，元左翼政党の党員たちがファシスト政党に加わることはあったが，しかし，かれらは少数派を代表するにとどまった。

しかしながら，1930年代のフランスにかんしては，ファシズムにおいて元左翼の人間の占める位置は大きく，そのことを考えれば，フランスの左翼の周辺的要素にたいするファシズムの影響，ファシズムと左翼との関係の問題の重要性は無視できず，左翼からファシズムへの移行という現象，左翼の政治的経験のファシズムの経験への「変身」という過程の一般的条件をあきらかにすることはきわめて重要であろう。もちろん，この「変身」の条件とその過程は国や個人によって違いがあったであろうが，しかし，それにもかかわらず，それらのひとつひとつの例は共通した性格をもつそれぞれ典型的な基準例として提示することができるものであろう。

万人によって承認される「ファシズム」の定義[2)]をあたえるのはむずかしく，また，いかなる歴史的基盤にファシズムの定義を据えることができるかということも問われなければならないが，しかし，イタリアのファシズムとナチズムとは，比較考察が可能な歴史的現象であったことは否定できない。すなわち，政治的慣行の面では，両者の類似性は明白であり，ともにカリスマ的指導者が活動家たちの戦闘的な行動を軍隊化した大衆的な武装政党，スローガンと儀式によって宗教的な秩序をもった政党を指揮したのである。たしかに，イデオロギーにかんしては，両者のあいだには，当初の知的伝統においても，教義の表明においても，重要な相違が存在した。ナチズムでは，人種差別にもとづく教義が早くから定着し，強固に維持され，ヒトラーの政策を長期間特徴づけた。これとは反対に，イタリアのファシズムは折衷的であり，すべての原理的教義の拒否を明確にし，ヒトラーの人種差別と最終的には一線を画した。しかし，このような相違にもかかわらず，両者の世界観の根源的な類似性を無視することはできず，それはイタリアのファシズムとナチズムとを同時代に存在した他のすべての世界観と区別している。人種主義的決定論のかたちをとろうとそれと一線を画そうと，両者はともに，世界

1) オズワルド・モーズレーについては，Robert Skidelsky, *Oswald Mosley*, Hamilton, London, 1975.

2) ファシズムの定義について論じた文献は，多数存在するが，とりわけ有益なものとしては，Walter Laqueur ed., *Fascism. A Reader's Guide. Analyses, Interpretations, Bioqraphy,* Wildwood House, London, 1976; Stanley Payne, *Fascism. Comparison and Definition*, The University of Wisconsin Press, Wisconsin, 1980.

の反理性主義的理解において他とは区別され，両者ともに，ナショナリズムの極端なヴァリアントを体現するものであった。

ファシズムは，19 世紀末葉に広がった極右ナショナリズムからその基礎的要素の大部分を，とりわけ，その基本的な反民主主義，秩序と権威の原理，自由に向かっての人間解放の思想の否定を受け継いだ。それは，伝統的なエリート層を――たとえ権力を掌握し維持するために，かれらと一時的に妥協することがあっても――軽蔑し，民衆のなかの「優秀な」分子を集めて政府と一体化させた単一政党しか認めず，この単一政党に体現された階層組織を国民全体に拡大しようとした。そして，その全体主義的支配の意志にとって障害となる伝統的要素を排除して，その「使命」の目的を正当化する「神話」のなかに，その行動を刻み込もうとした。ファシズムは，「新しい人間」を創造し，個人を完全に盲目的，自発的に社会秩序に参加させる「新しい国民」を育成しようと願った。

左翼の全体主義である共産主義も「共産主義的人間」の誕生を奨励したが，それと同様に，いや，おそらく，それ以上に堂々と，右翼の全体主義であるファシズムはその全体主義の野心を誇り高く主張した。ムッソリーニは，1925 年に，その反対者のひとりがファシズムを告発しようとして「全体主義」という語を使用したのに反論して，その語を「ファシズム」の栄誉の称号として誇示するために使用した[3]。それは新しい国民の育成という野心の実現に必要な強制と力の意志の表明であり，その意志の表明によってあきらかにされたファシズムの精神世界であった。こうして，ファシズムは国民の全体主義化の障害となるすべてのものを憎悪と排除の対象としたのである。

ファシズムがつくりあげようとした国民共同体は，ファシズムによってあらたに創造され，新しいイデオロギーに深く浸透され，完全に洗脳された「新しい人間」によって構成されるべきものであった。「ファシスト的人間」は共同体と共同体を人格化した指導者に奉仕するために常時動員可能な個人でなければならず，規律と服従の美点を備えてはいるが，しかし，同時に，熱狂的で高揚した感情，盲目的信念をもった個人でなければならなかった。また，ファシズムの野心は，その社会のすべてのメンバーを強い兵士に育てあげる熱烈な軍国主義を生み出すことにあった。それは，「新しい国民」が強力な国家の建設と領土拡張のための戦いに身を投じなければならないという避けがたい運命にあったからである。この戦いには終わりがなかった。戦争は，ファシズムによって生まれ変わった国民の生命力が検証され維持されつづけるための自然の試錬だからであった[4]。

ファシズムの推進者のなかに左翼に起源をもつ構成分子が存在することは，これまで，しばしば歴史家たちによって指摘されてきた。この現象については，第 1 次世界大戦の経験からつよく影響を受けた人物たちが，直接行動主義によってファシズムへ駆り立てられたのだという説明が一般的であったが，ジャック・ドリオのファシズムへの移行の場合も，かれが生来もっていた直接行動主義への性向が，共産主義運動における党活動の規律の押しつけによって窒息させられた結果であると説明された[5]。また，若干のファシズム運動のなかに元左翼の人間が

[3] Meirs Michaelis, Anmerkungen zum italienischen Totalitarismusbegriff. Zur Kritik der Thesen Hannah Arendts und Renzo De Felices, *Quellen und Forshungen aus italienischen Archiven und Bibliotheken*, Deutsches Institut, Roma, Bd.62, 1982, pp.270-302.

[4] MacGregor Knox, Conquest, Foreign and Domestic, in Fascist Italy and Nazi Germany, *Journal of Modern History*, vol.56, no.1, March 1984, pp.1-57.

[5] George L. Mosse, Towards a General Theory of Fascism, in George L. Mosse ed., *International Fascism. New Thoughts and New Approaches*, Sage Publications, London, 1979, p.18; Gilbert D. Allardyce, The Political Transition of Jacques Doriot, *Journal of Contemporary History*, vol.1, no.1, 1966, p.72.

存在したのは，社会主義とナショナリズムとが結合してファシズムを生み出した結果であると主張された[6]。こうして，フランスにかんしては，ドリオを含む1930年代の左翼からファシズムへの転向者たちは，個人の深い基層を国民的伝統とナショナリズムのなかにみいだした，19世紀末－20世紀初頭のナショナリズム運動の知的指導者，革命と保守主義，ナショナリズムと社会主義を融合させたモーリス・バレス，その他のナショナリストたちと同列に扱われ論じられた。このような観点は，その後，フランスのファシズムがけっして周辺的な現象ではなく，それはすでに第1次世界大戦前に一貫した思想体系（まだ「ファシズム」という語はなかったが）として形成され，イタリアのファシズムやナチズムの生成にとって母胎の役目をつとめたと主張するイスラエルの歴史家ゼーフ・ステルネルによって，いっそう深められ発展させられた[7]。

左翼の人間たちのファシズムへの移行という現象の理由をあきらかにしようとするステルネルの議論にとって鍵となる説明は，「マルクス主義の修正」という理由であり，かれは「ファシズムのイデオロギーはマルクス主義の修正の産物である」と終始一貫して主張した。しかし，マルクス主義の修正はつねにファシズムを生み出すとはかぎらず，それは多くの場合，民主社会主義にもいたりついたのであり，マルクス主義の修正をつうじてファシズムに到達するという主張はすくなくとも根拠薄弱であり，とりわけ，その説明はジャック・ドリオの場合にはあてはまらないのである。

純粋な――現実のさまざまな事件との直接的な関係のない――思想史の系譜のなかでファシズムのイデオロギーを組み立てたステルネルの議論にとりわけ欠けているのは，左翼からファシズムへ移行した人物の個人的な道程を歴史的にたどり，同時に，その移行を理解するための現実的枠組みを提供する説明である。左翼からファシズムへの移行の理由をあきらかにするためには，思想史だけでは不十分であり，政治的，イデオロギー的分析と同時に，ひとつの時代の心性，渇望，文化的風土，集合的感性などの歴史に助けを求めることも必要であろう。本稿では，このような課題を念頭に置きつつ，共産主義からファシズムへのジャック・ドリオの偏流の過程をできるだけあきらかにしたいと願っている。

1. 生い立ち

ジャック・ドリオは，1898年9月26日，パ

---

[6] Eugen Weber, Nationalism, Socialism and National-Socialism in France, *French Historical Studies*, vol.2, no.3, 1962, pp.273-307.

[7] Zeev Sternhell, *Maurice Barrès et le nationalisme français*, Armand Colin, Paris, 1972; *La droite révolutionnaire, 1885-1914, Les origines françaises du fascisme*, Editions du Seuil, Paris, 1978; *Ni droite, ni gauche. L'idéologie fasciste en France*, Editions du Seuil, Paris, 1983. ゼーフ・ステルネルによれば，フランスにおけるファシズムの歴史は，1）1880年代のブーランジスムの運動，2）20世紀初頭に，社会的志向をもつ王党派と元革命的サンディカリストを結びつけたプルードン・クラブ，3）さらに，両大戦間に左翼と右翼との若干の人物たちのあいだで，すくなくとも言説のレヴェルでみられた収斂，この3者の動きのなかで実現した左翼ならびに右翼出身の離反者たちの出会いとみなすことができる。これらの出会いのそれぞれは，最初は，ファシズムのかたちを予兆するイデオロギー的総合を生み出し，つぎに，両大戦間にあらわれたはっきりした特徴を示すファシズムのイデオロギーを形成したのであり，こうして，この3世代の「国家社会主義者」が，右翼の政治的価値観と左翼の社会的価値観とを結合することによって，ファシズムをつくりだしたのであるという。竹岡敬温『世界恐慌期フランスの社会――経済　政治　ファシズム――』御茶の水書房，2007年，p.739sq. このステルネルの主張を批判したものとしては，とりわけ，Michel Winock, Fascisme à la française ou fascisme introuvable?, *Le Débat*, no.25, mai 1983, pp.35-44; Shlomo Sand, l'idéologie fasciste en France, *Esprit*, nos.8-9, août-septembre 1983, pp.149-160; Serge Berstein, La France des années 30 allergique au fascisme. A propos de Zeev Sternhell. *Vingtième siècle*, no.2, avril 1984, pp.83-94; Jacques Julliard, Sur un fascisme imaginaire: à propos d'un livre de Zeev Sternhell,*Annales ESC*, vol.39, no.4, juillet-août 1984, pp.849-861.

リ盆地北部の都市ボーヴェの東，約12キロメートルに位置し，1,200人の住民が農業と農村工業で生計を立てていたオワーズ県の村ブレールで，貧しい製鉄工の家庭に生まれた。ファシズム運動の主要リーダーのうち，ドリオはまさしく唯一人プロレタリアート出身であり，正真正銘の「人民の子」であった。かれの父ジョルジュ・ドリオは，中央山塊地帯の東北端にある山深い農村モルヴァンの農民とイタリアからの移民労働者の家系出身の母とのあいだに生まれ，長じて鍛冶職人となった。幼い日のジャック・ドリオは，鍛冶場で働く父親のそばで長時間を過した。かれの母親は内職でお針子の仕事をしていたが，家計の苦しいときには，他家で家政婦として働かねばならなかった[8]。

19世紀後半から20世紀初頭にかけて起こった長期にわたる経済的変化――工業化の進展にくわえて1870年代に始まり20世紀初頭まで続いた長期の不況――は，農村の職人仕事を容赦なく衰退の道に追いやり，ジョルジュ・ドリオもその鍛冶場を閉めて，ブレールの唯一の工場であった農機具工場に職長として雇われた。ついで，当時の多くの労働者がそうしたように，つぎつぎと職場を変え，ソム県やノール県の多くの工場で職をえたあと，ブレールに舞い戻った。その遍歴のあいだ，家族はかれについてまわった。

ジャック・ドリオは小学校時代は勉強に熱心な，読書好きの生徒であったようだが，1911年，小学校卒業後，家庭が貧しく学業を続けることは論外であったので，オワーズ県の小郡役場所在地クレイユの職業学校に送られ，そこで2年間学んで，機械部品の仕上げ工の資格を取得した。職業学校を出てすぐにアベヴィル（ソム県）の工場で働き，1914年夏に戦争が始まったあとも，同市のいくつかの工場でさまざまな「ちっぽけな仕事」についたあと，給料のよかった乳製品加工場に雇われた。

もっと堅実な仕事につきたいと願って，1915年パリに出たドリオが，一時，叔父のもとに身を寄せたあと，同年秋，サン・ドニ――以後，かれの生涯の最大部分と一体化することになる都市――にやってきたとき，17歳になったばかりであった。17歳のジャック・ドリオは，当時としては背が高く180センチメートルあったが，やせて，ひょろひょろしていて，衣類などを入れた小さな包みを手にもって，めがねをかけ，内気な青年にみえた。青年ドリオは多くの工場で最初，不熟練工として，ついで機械部品の仕上げ工として働いたあと，アステール自動車工場に移ったが，そこでビゾーという名の無政府主義サンディカリストの老活動家が政治問題にたいしてドリオの目を開かせ，また，のちにかれの友人となり補佐役となる仕事仲間マルセル・マルシャルと知り合った。ついでラ・フルネーズ精錬所に移り，冶金工の資格を取ったが，そこでは，協同組合のレストランで，労働総同盟（CGT）の活動家や社会党（Section française de l'Internationale ouvrière, SFIO）青年部――マルシャルもそこに属していた――のメンバーたちと出会い，親しく交わった。

1916年，ドリオは社会党（SFIO）青年部のサン・ドニ支部に加盟した[9]。しかし，かれは党活動にはあまり熱心ではなく，むしろ，地方のボクシング・クラブ――青年ドリオは，ありあまるエネルギーの捌け口をそこにみいだしたのであろう――に通ったり，夜は，初等教育によって教えられることのなかった知識に飢えていたのであろう，雑多な種類の書物を貪り読んで時間を過した[10]。20年後，この頃を思い起こして，ドリオは，かれが送った若い労働者の生活の苛酷さ――1日12時間労働，日常的な新

8) Jean-Paul Brunet, *Jacques Doriot. Du communisme au fascisme*, Editions Balland, Paris, 1986, pp.16-17.

9) J.-P. Brunet, *ibid*., pp.17-18; Jean-Paul Brunet, *Saint-Denis la ville rouge, 1890-1939*, Hachette, Paris, 1980, p.93.

10) J.-P. Brunet, *Jacques Doriot. Du communisme au fascisme, ibid*., p.18.

米いびり，ごくわずかな賃金までも削り取る罰金制度，そして企業の管理職と労働者との関係に一般にみられた「人間性の欠如」――を強調している[11]。

けれども，若き冶金工ドリオのサン・ドニにおける経験は，かれの将来に小さからぬ影響をあたえた。ドリオが所属した社会党（SFIO）青年部サン・ドニ支部は，1914年の大戦勃発時に成立した挙国一致内閣がフランス国民にイデオロギーの対立を超えて団結を訴えた「神聖連合」の精神に反対し，のちには社会党（SFIO）少数派の平和主義者を支持した。また，サン・ドニの労働者のなかには多数の革命的サンディカリストが存在し，かれらとの接触は，ヴァイタリティにあふれた男，未来のフランス人民党のリーダーに，政治行動における大衆の自発性を尊重させ，直接行動主義への傾向を発達させたとおもわれる。

ドリオの世代の青年たちに真の政治的自覚をもたせるにいたったのは，過酷な戦争の体験であった。ドリオは1917年4月に召集された。戦争にうんざりしていた労働者の世界で生きていたかれは，召集令をあきらめの気持でしか受け取らなかったにちがいない。ドリオは歩兵連隊に配属され，5か月後には前線に向かって出発した。1917年秋，ドリオの配属された連隊はパリ郊外のオールネ・スー・ボワ・セルヴァン，ついでマルメゾンでパリ防衛のための陣地に宿営した[12]が，その後，かれは配属を何度も変えられ，1918年春には，かれの部隊はエーヌ県に広がる台地シュマン・デ・ダムに派遣された。この地でくりひろげられた戦闘でかれの部隊はほとんど全滅したが，ドリオは生き残り，そのあとロレーヌ地方の前線に送られた。ロレーヌの戦場では，ドリオは負傷した戦友を背中に負って2キロメートル近い距離を連れ帰ったことで表彰を受けた[13]が，戦後，東方軍に配属されて送られたアルバニアでは，規律違反で1か月の営倉入りの刑を食らった。兵士ドリオの連帯的態度と反逆的態度とを示す2つの事実であった。

1918年11月11日の休戦後，東方軍に配属されたドリオは，1919年夏のブダペストで起きたハンガリーの共産主義者ベラ・クンによる一時的なソヴィエト政権樹立，ついで同年10月のイタリアの詩人ガブリエル・ダヌンツィオらによるユーゴスラヴィアの都市フィウメの占領など，大戦後にヨーロッパのこの地域を揺り動かした動乱を目撃した。1920年5月，3年の兵役期間が終了し，ドリオはサン・ドニに戻った。

しかしながら，ドリオのその後の人生にとって，休戦後の東欧各地への遍歴よりもむしろ重要な意味をもったのは，前線で過ごした年月であったろう。この戦火の世代の青年たちが戦争から帰還したとき，かれらはその生活，その肉体，その存在のなかに戦争の影響を深く受けて帰ってきたのであった。塹壕生活の苦痛は，ドイツ側よりもフランス側のほうがいっそうひどかった。ドイツ軍は掩蔽壕をコンクリートで築いていたのにたいして，フランス軍は木で補強するだけで，武器の装備も劣っていた。毎日が苦難の連続であった。寒さ，雨，いたるところにぬかるみがあった。体と衣服は不潔に汚れ，シラミがとりつき繁殖した。排便と死体置場がむかつくような悪臭を放った。降り注ぐ砲弾の

11) Raymond Millet *Doriot et ses compagnons*, Plon, Paris, 1937; Pierre Drieu La Rochelle, *Doriot ou la vie d'un ouvrier français*, Les Editions populaires françaises, Saint-Denis, 1936; *L'Emancipation*, 27 février 1937（ジャック・ドリオの政治活動を祝って掲載された論説およびドリオとマルセル・マルシャルとのインタヴュー）. J.-P. Brunet, *Jacques Doriot. Du communisme au fascisme, ibid*., p.18.

12) *Guerre de 1914-1918. Historique de 264^{e} régiment d'infanterie*, Lithographie militaire P. Demange, Angers, 1920, 47p.; J.-P. Brunet, *Jacques Doriot. Du communisme au fascisme, ibid*., p.18.

13) P. Drieu La Rochelle, *op. cit*., p.8.

雨によって仲間たちは体を吹き飛ばされ粉砕され，既死した。死はどこにでもあり，絶えざる死の脅威と恐怖がつきまとった。ジャック・ドリオは戦争によって精神の平衡を失うことはなかったが，しかし，かれは数百万の「虐殺された」世代のひとりであった。

戦争は，ドリオをその社会的地位から抜け出させはしなかった。転戦の末には一等兵に昇進していたサン・ドニの冶金工がふたたびブルーの作業着を着るのに，さして苦労はなかった。しかし，戦争は，兵士たちを社会的に混交させ，かれらのあいだで階級とイデオロギーを近づけた。戦争を戦い抜くために階級の違いを超えて一致団結を呼びかけた「神聖連合」のスローガンは，とりわけ労働者や社会党（SFIO）の活動家，サンディカリストたちのあいだに，戦争に勝利したあとには，公平で友愛的な新しい社会の到来が戦前の多くの社会紛争の原因を消滅させるのではないかという期待を強めた。しかし，その幻想は急速に捨てなければならなかった。戦後，労働者階級のために採用された措置は，団体協約法（1919 年 3 月 25 日）と工業において賃金の引下げなしに労働時間を 8 時間に短縮した法律（1919 年 4 月 23 日）だけであった。

労働総同盟（CGT）の組合員数は急速に増加し，戦前の 40 万人にたいして，1919 年には 100 万人以上を数え，労働者の闘争心は強められ，つぎからつぎにデモとストライキがおこなわれ，その拡大の勢いは多くの労働者と一部の中産階級に革命が間近に迫っていると感じさせた。1919 年 6 月には，パリ地域の冶金工場でみられたストライキの強力な運動は革命を予知するかにおもわれ，サン・ドニはその行動の最先端に立っていた。

とりわけ 1920 年 5 月――ジャック・ドリオがサン・ドニに帰ってきたときである――，労働総同盟（CGT）は，鉄道員たちの無期限ストを支援するために，他の工業分野の労働者たちにもゼネストを指令した。しかし，経営者と政府は労使交渉決裂後の力による対決を周到に準備していた。鉄道会社は，スト不参加者，退職者，グランド・ゼコルの学生たちから募られた「ヴォランティア」の協力をえて，列車を走らせることができた。ストライキは失敗した。スト失敗のつけは重大であり，1 万 8,000 人の鉄道員が解雇され，全労働者のあいだに大きな失望が広がった。革命が近いというのはまったくの幻想であり，直接行動を重視し，ゼネストの決定的な力を確信し，改良主義と階級協調に断固反対していたサンディカリズムの側にもはや希望はなかった。一方，比例代表制の強化された新しい選挙制度のもとで実施された 1919 年 11 月の国会議員選挙は，社会党（SFIO）の希望を打ち砕き，同党は議席数を（103 から 68 に）大きく減少させていた。

戦争中抑圧されていたジャック・ドリオの反逆精神は，復員後，その姿を明確にした。サン・ドニに戻り，ふたたび工場で働きはじめたドリオは社会党（SFIO）青年部の仲間たちと再会したが，社会党内では，1919 年初めにレーニンが創立したばかりの第 3 インターナショナル（共産主義インターナショナル，コミンテルン）に加盟するべきか否かをめぐって，白熱した議論が戦わされていた。

当時，ボルシェヴィズムはフランスの労働運動と民主社会主義の伝統からは遠いとおもわれ，フランス社会主義のボルシェヴィキ化の流れは少数派にとどまり，社会党（SFIO）青年部サン・ドニ支部の態度も未決定であった。1920 年 5 月のストライキの波がサン・ドニを大きく混乱させるなかで，ジャック・ドリオは第 3 インターナショナルの支持者の陣営に加わった[14]。ドリオが政治の舞台に登場したのは，

[14] ピエール・ミルザは，ドリオがコミンテルン加盟支持者となったことについては，1914 − 1918 年の大戦中，1915 年 9 月にスイスのツィンマーヴァルト

そのときであった。1920年秋に開催される社会党（SFIO）青年部の全国大会に代表として送られる予定であったサン・ドニ支部書記が病気になったため，かれはドリオに代行を頼み，サン・ドニ支部を代表して大会で発言してくれるよう依頼した[15]。社会党（SFIO）青年部全国大会は，共産主義インターナショナル青年部への加盟を圧倒的多数で決議し，ドリオは，それまでほとんど名前を知られていなかったにもかかわらず，あたらしく設立されたそのフランス支部委員会に補欠メンバーとして名をつらねた。1920年12月の社会党（SFIO）トゥール大会はコミンテルン加盟問題で分裂し，翌年にはフランス共産党が誕生した。

1921年2月にコミンテルン青年部フランス支部委員会の書記が投獄されたとき，ドリオは，かれに代わる代行書記に任命された[16]。家族的きずなから解き放たれ，戦争の影響をつよく受け，安定した職を決めかねていた根なし草の若き反逆者は，いまや職業的革命家になろうとしていた。ドリオにとって，そして数百万の若い労働者たちにとって，ただひとつの曙光が東の彼方に昇っていた。

2. モスクワへ

1921年春から夏にかけて，ジャック・ドリオはかれの最初の論説をいくつか執筆している。まず，共産党青年部の不定期刊行物『ル・コンスクリ』に寄稿したあと，サン・ドニ地区の共産党の週刊機関紙『解放』（1921年4月16日号）に「青年よ，みずからを組織せよ」と題した論説を書き，そのなかでドリオは「ブルジョワジーの圧政の犠牲者である同志」たちに連帯を呼びかけている。ついで，共産党青年部の半月刊機関紙『前衛』（1921年7月11日号）に「われわれの世論の喚起の方法を変えよう」と題して発表した論説では，革命と暴力を奨励し，「言説以外の方法によってブルジョワジーを攻撃しなければならない。行動という直接的方法がある。つまり，われわれには武器を手にして攻撃するという自由が残っている。プロレタリアートがきわめて長いあいだたたかうことに消極的で無関心であったのは，その大半は，指導者たちが誤っていたからである。革命を愛するしかない。それが革命を支えるプロレタリアートの唯一の方法である[17]」と書いている。

このような激しい論調のドリオの論説は，ただちに警察の追求を招いた。共産党機関紙『ユマニテ』は，1921年5月10日，「『ル・コンスクリ』紙の同志ドリオは，本日2時に予審判事ヴァラン氏の事務室に呼び出された。いまさら，なにが問題だというのか」と抗議した。『ル・コンスクリ』紙の記事にかんしてドリオが召喚されたのは，「軍人の不服従教唆」の容疑のためであった。『解放』紙は，6月25日，ドリオの部屋が，かれの留守中，警察によって家宅捜索され，たいして重要ではない若干の書類とパンフレットが押収されたと発表した。ドリオは，6月15－16日にパリで開催された共産党青年部全国大会で，「見当はずれ」の警察の捜査を批判し，さらに，「すべての日和見主義」に反対し，「ソヴィエト・ロシアが，世界の資本主義にたいするたたかいにおいて，いかにわれわれすべての助けを必要としているかを

で開催された国際社会主義者会議の参加者たち――未来のフランス共産党の中心グループとなる人物たち――と前線で出会い，かれらから受けた影響があったことを指摘している。Pierre Milza, *Fascisme français. Passé et présent*, Flammarion, Paris, 1987, p.160.

15) Maurice Laporte, *Les mystères du Kremlin*（*dans les coulisses de la IIIe Internationale*）, La Renaissance Moderne, Paris, 1928, pp.51-52.

16) *L'Avant-Garde*, 27 novembre 1920; Fédération nationale des Jeunesses socialistes communistes de France, *Rapport moral au 1er congrès national*, 15-16 mai 1921, Imprimerie Dangon, Paris, s. d., p.5.

17) Cit. par René Pellegrin, *Jacques Doriot communiste*, Centre de Synthèse communautaire, Villeneuve-lès-Avignon, 1970, p.26.

示[18]」そうとした。

社会党（SFIO）トゥール大会では多数派に味方し，共産党員となったドリオの党内における昇進は，きわめて急速であった。かれは共産党青年部執行委員に難なく再選され，以後，マルクス，レーニンあるいはブハーリンを読みふけり，その政治家としての規模も大きくなった。1921年7月，ドリオは，コミンテルン青年部第2回大会と，それに並行して，コミンテルン第3回大会（1921年6月22日－7月12日）にフランス共産党青年部を代表して出席するために，モスクワに旅立った[19]。

ピエール・ドリュ・ラ・ロシェルの証言を信じるならば，モスクワ滞在中，ドリオはレーニンに招かれたが，そのとき，レーニンは新参者ドリオの熱狂的な一徹さを叱ったという。革命後のロシアでは経済は活力を失い，1921年2月末から3月半ばにかけて起こったクロンシュタットの水兵の暴動が革命政府に警鐘を鳴らしていた。このためレーニンはただちに戦術転換をおこない，新経済政策（ネップNEP）への移行を決定していた。それは共産主義の教義の明瞭な後退であり，ロシア革命の蜂起が他国に波及して全ヨーロッパに革命を拡大するという確信に当時とらわれていたドリオを驚かせるものであった[20]。

しかし，ドリオには新しいチャンスが到来した。ソ連共産党は，フランス共産党青年部初代書記長モーリス・ラポルトにたいして，コミンテルン青年部におけるフランス共産党青年部の代表としてモスクワにとどまるよう要請したが，ラポルトは，このような職務がかれ自身の将来にとって重要であるとはみなさなかったようで，のちにかれが公にすることになる著書『クレムリンの秘密[21]』のなかで語っているところによれば，ソヴィエト・ロシアに滞在することはかれをいっこうに有頂天にさせず，また，ドリオという「邪魔な人物」を厄介払いしようとおもって――おそらく，ラポルトは当時すでにドリオを危険なライヴァルと感じていたのであろう――，その申し出を固辞し，代わりにドリオの名を示唆したという[22]。ソ連共産党はなかなか承知しなかったが，しかし，結局，ドリオを6か月間――6か月後にはラポルトがモスクワに戻るという条件で――代理の資格で受け入れた。ラポルトによれば，ドリオはこの思いがけないチャンスに歓喜し，数日間クレムリンから姿を消し，腰を振って歩くモスクワの商売女が出没する界隈に出かけていったという[23]。

青年ドリオがモスクワの娼婦たちのもとに通ったであろうことを，否定する必要はない。しかし，たしかなのは，ロシア滞在中，ドリオが大きく変わったことである。ドリオのロシア

---

18) *L'Avant-Garde*, numéro du 15 au 30 juin 1921, cit. par R. Pellegrin, *ibid*.

19) ロバート・サウシーは，ドリオがコミンテルン第3回大会に出席するためモスクワに派遣された年を1920年としているが，同大会が開催されたのは1921年6－7月であるから，ドリオがモスクワに発ったのは1921年であったろう。ジャン・ポール・ブリュネはその日付を1921年7月としているが，そうであれば，ドリオは途中から同大会に参加したことになる。Robert Soucy, *French Fascism: The Second Wave, 1933-1939*, Yale University Press, New Haven and London, 1995, p.207, (traduction française) *Fascismes français? 1933-1939. Mouvements antidémocratiques*, Editions Autrement, Paris, 2004, p.296; J.-P. Brunet, *Jacques Doriot. Du communisme au fascisme, op. cit*., p.30.

20) J.-P. Brunet, *ibid*.

21) M. Laporte, *Les mystère du Kremlin* (*dans les coulisses de la IIIe Internationale*), *op. cit*. モーリス・ラポルトは1923年にコミンテルンと対立し，1925年にフランス共産党と決定的に決別し，以後，フランス共産党幹部とコミンテルンにたいして，絶望的でほとんど病的ともいえる「私闘」を開始した。1943年には，かれは，ジョゼフ・ダルナンによって創設され，ドイツに協力して戦争末期にはナチス親衛隊（SS）に合併される「民兵団（ミリス）」の週刊機関紙『コンバ』と協力するにいたる。Dieter Wolf, *Doriot. Du communisme à la collaboration*, Arthème Fayard, Paris, 1967, p.25，平瀬徹也・吉田八重子訳『フランスファシズムの生成　人民戦線とドリオ運動』風媒社，1972年，p.35.

22) D. Wolf, *ibid*., p.27，平瀬・吉田訳，pp.30-31.

23) M. Laporte, *op. cit*.; J.-P. Brunet, *Jacques Doriot. Du communisme au fascisme, op. cit*., p.37.

滞在は結局，6か月ではなく，2度の短期間のフランス帰国とドイツ旅行をはさんで，通算20か月以上に及んだ。その間，ドリオはドイツ語とロシア語の初歩を学び，マルクス主義の教育を受け，その視野と遠い地平の彼方にある世界革命の初歩的知識を拡大した。かれは，コミンテルンのなかにおけるフランス共産党の仕事についての討論に参加しつつ，革命運動の実習をし，宣伝文書の作成を練習し，ロシア各地の集会に参加し，それらの集会でなんども演説をおこない，ボルシェヴィキの用語法を身につけた。こうして，サン・ドニの若きプロレタリア，ドリオは，ロシア10月革命の英雄たちのそばで学び，かれらとの付き合いのなかで，人間としてのスケールを大きくしていった。この間，フランスでは，ドリオの反軍国主義的煽動行為についての裁判が進行し，被告欠席のまま，1921年秋，軽罪裁判所が12か月の懲役刑を宣告していた[24]。

コミンテルンでは，ドリオはトロツキーの指導する「ラテン諸国委員会」で活動し，トロツキーの才気煥発な知性と世界的な視野に魅了され，かれと親しくなった。ドリオはまたレーニンを心から敬愛し，1924年1月，獄中でレーニンの死を知ったとき，嗚咽をこらえることができなかったと告白している。のちに，ドリオがコミンテルンとの関係を断絶したあとも，さらに1936年にフランス人民党（PPF）を創立したあとも，かれは部屋にレーニンの肖像を掲げつづけた[25]。

1922年春には，フランスの警察から追跡されるという「栄光」に浴していたドリオは，フランス共産党青年部を代表してコミンテルン青年部書記のポストにつき，コミンテルン執行部最高会議幹部会に席を占めることが許され，成立後まだ日の浅いソ連国家の指導者たちと接触することができた。ドリオ23歳のときであった。このいちじるしい昇進は，ひとつには，民主社会主義の教育の下で養成された活動家たちを遠ざけ，ソヴィエト革命の大義を熱狂的に支持し，新しいコミンテルンの指導に完全に従順な青年活動家たちを育てようとするコミンテルン指導者たちの意志の結果であった。しかし，この頃，ドリオは，フランス共産党の内部抗争に引きずり込まれ，フランス共産党とコミンテルンとの関係悪化の巻き添えになった。

1921年のフランス共産党の誕生とともに，フランスの政治史のなかには独特な現象が生まれようとしていた。すなわち，フランス共産党の運動は，既成体制への謀反のメンタリティを示すことによって自国の革命をめざしながらも，しかし，その行動は，ロシア革命のまわりに構築され，世界革命の促進とソ連国家の利益の保護とを同一視し，厳格に中央集権化された世界組織の枠のなかにきびしく組み入れられていた。「国際主義」はロシア「ただ一国の社会主義」と一体化した「インターナショナル」の枠内でしか有効な慣行ではなく，規律の画一性の下で，それはコミンテルンと各国支部とのあいだで大きな緊張を生むことになった。

そのうえ，誕生後のフランス共産党は，トゥール大会で採用した「民主的中央集権制」を実行に移すどころか，派閥抗争と個人的利害の対立に明け暮れていた。1921年6－7月のコミンテルン第3回大会と12月18日のコミンテルン執行部第1回最高会議幹部会は，ヨーロッパにおける革命運動の退潮を前にして，大衆的な共産党の創造と「プロレタリア統一戦線」の戦術の推進を決定した。しかし，この決定はフランス共産党には好意的には受け入れられず，「統一戦線」戦術を採用するか否かをめぐって同党は動きがとれなくなり，その結果，危機が定着した。同党の右派と（マルセル・キャシャンとルイ・オスカール・フロサールが

[24] D. Wolf, *op. cit*., pp.27-28，平瀬・吉田訳，p.31.
[25] Jacques Doriot, *La France ne sera pas un pays d'esclaves*, Les Œuvres françaises, Paris, 1936, pp.7-8, 100-101; D. Wolf, *ibid*., p.30，平瀬・吉田訳，p.33; J.-P. Brunet, *Jacques Doriot. Du communisme au fascisme, op. cit*., p.31.

リードしていた）中道派は，コミンテルンの「少数独裁的中央集権制」を批判し，フランスの問題にたいする干渉を非難した。

コミンテルンとの対立は，1921年12月26－31日にマルセイユで開催されたフランス共産党大会できわめて激しい様相を呈し，コミンテルン第3回大会以来，モスクワでフランス共産党を代表して，コミンテルンの指令や情報を同党に伝達していたポーランドの若き知識人ボリス・スーヴァリーヌはそのポストに再選されなかった。フランス共産党執行委員会は，スーヴァリーヌと連帯していた執行委員会の4人のメンバーが辞職したあと，1922年1月17日の会合で，「統一戦線」戦術はフランスでは適用不可能と宣言する決議を可決した。こうして，フランス共産党はコミンテルンと対決した。

1922年中，コミンテルン執行委員会は，フランス共産党指導部にたいしてその権威を回復し，強固な指導を確立するために，叱責と訓戒を繰り返した。このような事態を招いたフランス共産党の状況は，ドリオには受け入れがたかった。かれは，1922年5月9日，コミンテルン執行部最高会議幹部会で，フランス共産党の不十分な活動とその指導部が「統一戦線」戦術をサボタージュしていることを激しく非難した[26]。この結果，フランス共産党内では，ドリオはソ連の秘密機関の手先であるという噂が立てられるまでになった。かつてアナーキストで，1913年にフランスで5年の禁錮刑を宣告されたあと，ロシア革命に参加し，数年間，クレムリンで重要な位置を占めたことのあるヴィクトル・セルジュの証言[27]によれば，ドリオは1919年以来コミンテルンの議長をしていたジノヴィエフや対抗スパイ活動に従事するソ連の秘密機関の責任者たちに気に入られていたようであり，このため，ドリオはこの秘密機関から特別な好意を受けているスパイであるとの真偽の確めようがない噂が流された。

しかし，この時期のドリオはきわめてまじめな活動家だったようである。1922年，ベルリンでドリオはヴィクトル・セルジュに紹介されたが，セルジュはかれが「エネルギッシュだが謙虚な口調で話した」といい，「かれはロシア革命をおそらく心底から賞賛していた・・・わたしにはかれは慎しみ深く，しっかりした人間だという印象しか残さなかった。信頼に値する青年だった[28]」と書いている。また，ドリオより3歳年下で，かれ同様にフランス共産党青年部に属するサン・ドニ地区の活動家であったアンリ・バルベは，この頃のドリオをつぎのような言葉で描いている。「当時，ドリオは背の高い青年で，180センチあった。極端にやせていて，まるで苦行僧のようだった。かれは酒を飲まず，煙草も吸わず，いかなる快楽も追わなかった。心のなかの火がかれを焼きつくしていたかのようであった。かれはたいへんな活動家だった[29]。」

3. 代議士になるまで

ロシアから帰国したドリオは，1922年末から1923年初めにかけて，1914－1918年の大戦後のドイツの賠償不履行を理由にした，フランス軍のドイツ西部ルール地方の占領に反対するデモと集会をパリ地域で組織し，また，工場

[26] D. Wolf, *ibid*., pp.30-31，平瀬・吉田訳，p.34; Jean-Paul Brunet, *Histoire du PCF*（*1920-1982*）, PUF,《Que sais-je?》, Paris, 1983, pp.26-28.

[27] Victor Serge, Le cas Doriot. Pages de Journal, 1945-1947, *Les Temps Modernes*, no.45, juillet 1949, p.71sq. ヴィクトル・セルジュは本名ヴィクトル・キルバチシェという元アナーキストで，ロシアに亡命して，ロシア革命に参加したあと，数年間，クレムリンで重要な地位を占めたが，スターリンに反対したため，監獄に送られ，労役刑に処せられた。D. Wolf, *ibid*., p.31，平瀬・吉田訳，pp.34-35.

[28] V. Serge, ibid.; D. Wolf, *ibid*., p.28，平瀬・吉田訳，p.35; J.-P. Brunet, *Jacques Doriot. Du communisme au fascisme, op. cit*., p.35.

[29] Henri Barbé, *Souvenir de militant et de dirigeant communiste*, mémoires manuscrits, Hoover Institution on War and Peace, Stanford University, p.14.

細胞を再編成し，かれの指導下で，フランス共産党青年部は，まだ社会党モデルの痕跡をとどめていたフランス共産党のボルシェヴィキ化の尖兵となった。ドリオは，警察に追跡されていたため，さまざまな変名を使って活動し，文章を書いた。共産党青年部が反軍国主義の活動を展開したのは，とりわけドイツのルール地方においてであった。モーリス・ラポルトがコミンテルンとフランス共産党指導部との連絡をとって活動を調整する一方で，ドリオは現地での運動を指導した。結局，ドリオはルール地方で6か月近く過ごすことになった。

フランス軍とベルギー軍とのルール地方占領の前夜，1923年1月6－9日にドイツのエッセンで開かれたヨーロッパ7か国の共産党代表の会議は，ヨーロッパの労働者に「ヴェルサイユの強奪的講和条約」に反対して団結するよう，そして，フランスのプロレタリアートには間近に迫ったルール占領に反対してたたかうよう呼びかけた。『ユマニテ』紙と共産党青年部の機関紙『前衛』も激しい反占領キャンペーンを開始し，ルール地方では，共産党青年部が，フランス軍がルール地方にはいる直前に，フランス軍兵士たちに「ドイツのプロレタリアートと友好関係を結ぶ」よう訴えた2か国語のポスターを街頭に貼付した。ドリオの指導下，共産党青年部は数千枚のびらやタイプ印刷の新聞を配布した。それらのびらや新聞はカフェやレストランのテーブルで，さらには売春宿でもみつかった。

これらと並行して，フランス軍の動きの観察，連隊の位置の割り出し，連隊の士官たちにかんするデータを記載したカードの作成，「兵舎の酒保」を装った情報センターの設置，ドイツとアルザス・ロレーヌ地方のいくつかの主要都市への情報と指令伝達の管理の集中化などの，非合法活動が展開された。しかし，これらの非合法活動にたいしては，3月6－7日，共産党青年部の全国委員会と共産党政治局でラポルトが激しく異議を唱えた。また，ドイツにおける反軍国主義的宣伝は，たしかに政府当局に深刻な不安を抱かせた[30]が，しかし，それはフランスの兵士たちと労働者階級とのきわめて強い反独感情と衝突した。そのうえ，フランス共産党の活動家たちは，ドイツ共産党のナショナリズムへの志向を理解できなかった。こうして，ルール地方におけるフランス共産党青年部の活動は，結果としては，同組織の行動をいっそう「革命的」にし，ドリオ――かれにとっては，ドイツにおける反軍国主義活動は最初の大規模なボルシェヴィキ的活動であった――を始めとする新しい活動家たちを生み出したが，結局，失敗に終わった。ドリオは，1923年5月20－21日にリヨン・ヴィルールバンヌでフランス共産党青年部第3回大会が開催されたとき，ルール地方から姿を消し，変名で大会に参加し，工場細胞にかんする報告や「反軍国主義と反動」と題した論述を提出した。

1923年7月初め，ドリオは『2つの戦争のあいだで』と題した最初の小冊子（79ページ）をジャック・ギヨーというペンネームであらわし，同時に，そのドイツ語版がベルリンで公刊された。このなかでドリオはヴェルサイユ条約と英仏の帝国主義を告発し，将来必要となるかもしれない国防への労働者の参加を拒否し，資本主義諸国間に戦争が勃発した場合にはゼネストを実施すると主張する一方で，ソヴィエト体

30) フランスの警察はエッセン会議に出席したフランス代表を帰国次第逮捕するよう指示し，とりわけ『ユマニテ』紙の編集主幹マルセル・キャシャンは1923年1月20日に逮捕され，5月24日，高等法院として認定された上院が無管轄であると宣言するまで拘留された。一方，軍隊もすばやく反応した。軍人の民間施設への出入りの禁止，休暇と外出の中止，頻繁な点検と身体検査，ドイツ民間人の家宅捜索と不審尋問，反体制的宣伝をおこなった兵士たちの軍法会議によるきびしい追求と有罪判決などの措置がとられた。この件にかんする最大の裁判は，1924年6月，マインツでおこなわれた裁判であり，57人の被告が合計で130年の禁錮刑の判決を受けた。J.-P. Brunet, *Jacques Doriot. Du communisme au fascisme, op. cit.*, pp.36-37.

制を賛美していた。それらはドリオがコミンテルン第4回大会によって採択されたテーゼを解説したものにすぎず，けっして独創的なものではなかったが，ドリオの独創性はその比喩に富んだ表現の激しさ――たとえば，社会党員は「労働者の血でけがれ，胸がむかつくほど汚れた手を資本主義の金庫のなかに突っ込んでいる[31]」などと表現された――にあった。かれの唱えたスローガンは，「反帝国主義統一戦線」であった。

ドリオの第2の小冊子（35ページ）は『軍隊と資本主義の防衛[32]』と題され，1924年初めに，今度は本名で公刊された。その第1部では，ドリオは，20世紀初頭以来のフランスの社会争議の歴史にもとづいて，ストライキのさいに軍隊が果たした役割を厳しく告発し，「少数の資本家どもの手中に絶対的権力を維持させることにしか役立たない」軍隊を激しく非難している。ついで，ドリオは，ソ連赤軍の兵士たちが幸福に浸っている（赤軍の連隊は工場によって庇護されていて，工場は軍隊に代表を送って食物，住居，衣類，衛生を管理し，休暇の適法性を監視し，兵士たちもまた工場に代表を送り，「祝賀行事や集会が兵士と労働者，兵士と農民のあいだの絆を強める機会となっている」）のにたいして，フランスの「兵士たちの悲惨なさま」，物質的悲惨（ひどい食物と生活条件，無益な労働と規律）と精神的悲惨（「進歩的新聞」の禁止，手紙の検閲，日常的な倦怠など）をたっぷりと描き出している。ドリオは，すくなくとも公然とは軍隊の廃止まで要求してはいないが，しかし，その文章は明白な反軍国主義の主張であり，戦争のさいには軍隊が最初の交戦で崩壊し，対外戦争が内戦に変化して革命にいきつくようにと願い，扇動的な論法を用いて，軍隊組織を破壊しようと望んだのである。それは共産党の公式テーゼをフランスの状況に厳密に適用したものであり，純粋なボルシェヴィキ的図式そのものであった[33]。

1923年5月にフランス共産党青年部の書記長となったドリオは，急速に共産党青年部の新しい推進力の中心となり，若い党員たちを活気づかせ，幹部を育て，組織を厳格な規律に従わせ，多数の若い労働者だけでなく若い知識人の共産党青年部への加盟を実現した[34]。ドリオは，多くの変名を使っていたが，それらすべての変名で警察から追跡されていた。かれは当時，パリ9区ラファイエット街の共産党本部に身を隠して，シラミの住みついた折り畳み式ベッドに寝て，夜しか外出しなかった。

共産党青年部書記長の職務はドリオに党の政治局の役職への道を開き，かれは一気にフランス共産党の重要人物となった。しかし，ドリオは突然，闘士としての活動を中断しなければならなかった。ついに1923年のクリスマスの日に，警察につかまったからである。ドリオは，かつて『ル・コンスクリ』紙に執筆した論稿のために，すでに1921年秋に宣告されていた12か月の禁錮刑にくわえて，「軍人不服従教唆罪」に問われるおそれのある論説のためにも，警察に追われていたのである。1923年12月21日から1924年5月9日まで数回に分けておこなわれた軽罪裁判所の裁判は，ドリオに合計34か月の禁錮刑と600フランの罰金刑を宣告し[35]，かれはラ・サンテ刑務所に収監された。

ドリオは，結局，獄中で4か月半過した。活

31) Jacques Guilleau, *Entre les deux guerres*, Librairie de *L'Humanité*, 1923, p.59; D. Wolf, *op. cit*., pp.34-35，平瀬・吉田訳，p.38.

32) Jacques Doriot, *L'Armée et la défense du capitalisme*, Librairie de *L'Humanité*, 1924.

33) D. Wolf, *op. cit*., p.34，平瀬・吉田訳，p.39; J.-P. Brunet, *Jacques Doriot. Du communisme au fascisme, op. cit*., pp.39-40.

34) H. Barbé, *op. cit*., p.14; P. Drieu La Rochelle, *op. cit*., p.14; R. Millet, *op. cit*., p.29. これらの証言によれば――もちろん，その数字は文字通りには受け取れないが――，ドリオは共産党青年部のメンバーを3,000人から1万5,000人に増加させたという。

35) *Archives de la préfecture de police de Paris*, B/a 341, dossier 8310-1, Extrait des sommiers judiciaires en date du 1er mai 1928.

発な扇動活動と絶え間ない旅行の後におとずれたこの獄中生活でドリオは一息つき，この間にかれの政治的教養の明白な欠陥を埋めることができた。かれは獄中でマルクス，ジョレス，ルイ・ブラン，プルードン，クロポトキン，レーニン，トロツキー，ブハーリンなどを読みふけり，『前衛』紙のために論説を執筆し，若い女性書記の求めに応じて，共産党青年部の同志宛ての指示や覚書きをしたためた[36]。

1924 年 5 月 11 日には，国会議員選挙が予定されていた。共産党青年部のドリオの友人たちは，1919 年 7 月に 20 年間の懲役刑を宣告されていた共産党幹部のアンドレ・マルティを党が 1922 年と 1923 年の地方選挙に立候補させ，その結果，大量に得票して当選したマルティが 1923 年 2 月に恩赦を受けたという，当時流行した戦術にしたがって，ドリオを党の候補として立てようと考えた。この種の立候補は，党のシンパの範囲をはるかに越えて，特赦令に敏感な左翼の有権者たちにその支持を拡大できるという，一石二鳥の戦術であった[37]。

アンリ・バルベとマルセル・マルシャルをはじめとするサン・ドニの共産党青年部の幹部たちは，この件について，共産党サン・ドニ支部の承認と全国共産党青年部の責任者たちの同意をえたのち，共産党セーヌ県連ついで共産党指導部にたいして執拗に働きかけた。共産党指導部は，モスクワの若き秘蔵っ子ドリオの人気とあまりに急速な昇進のために，最初は煮え切らない態度をとったが，結局，譲歩し，ドリオはパリ郊外全体を選挙区とするセーヌ県第 4 区の候補者として推薦され，かれの名は，ポール・ヴァイアン・クーチュリエを筆頭とする「労働者・農民連合」の 19 人の候補者リストの 2 番目に記載された。

ドリオのための選挙戦は，共産党青年部を強力に動員して組織された。ドリオの未来の副官となるアンリ・バルベはのちにその回想録のなか[38]で，「われわれは，4 週間のうちに，80 人の若き演説家を育成し，かれらは休みなく郊外をすみずみまで走りまわった。われわれは数百回の地区，工場の集会や政治集会を組織し，他党の全集会の討論に参加して，それに反論した。党はわれわれを助けなかった。それどころか，指導部はわれわれをボイコットした。われわれは，選挙資金を集めるために，いたるところで募金活動をおこなった。わたしは，工場でのわたしの仕事を続けながら，3 週間，平均 1 日 3 回の集会をおこなった」と書いている。このバルベの文章にはいくらか誇張があり，『ユマニテ』紙は，1924 年 4 月 24 日，「ジャック・ドリオは背が高く頑丈で，目の澄んだ，男らしい若者である。かれの身ごなしは折り目正しく，言葉には無駄がない。すべてはかれの情熱と強い意志をあらわしている[39]」という表現で，獄中にあって有権者の前に姿をあらわせないドリオの横顔を紹介し，投票日の 5 月 11 日号では，「マルティとドリオの名において大赦を成功させよう」という 2 段抜きの見出しを掲げている。共産党青年部も，選挙戦中，その書記長ドリオの立候補が蒙っている「ブルジョワ的弾圧の犠牲」という側面を強調し，その選挙通達には，ドリオの住所を「ラ・サンテ刑務所」と記載した。

選挙期間中の 5 月 9 日，ドリオに軍人不服従教唆罪で 6 か月の禁錮刑と 100 フランの罰金刑があらたに宣告されたとき，ドリオは軽罪裁判所の判事たちに発言を要求し，ルール地方でおこなわれた反軍国主義活動の信念を表明し，ド

[36] R. Pellegrin, *op. cit*., pp.46-47. 第 3 共和制の刑務所の監視体制はきわめて寛大であったようで，収監者たちは日中の大半，かれらの監房をたがいに訪問することができ，外部の訪問者は毎日午後面会を許された。とくにラ・サンテ刑務所の政治犯監禁は，この外部との接触に特別のはからいをした。

[37] Philippe Robrieux, *Histoire intérieure du Parti communiste*, Arthème Fayard, Paris, 1984, Ⅳ *Biographie de Marty*, p.416.

[38] H. Barbé, *op. cit*., p.30.

[39] Cit. par D. Wolf, *op. cit*., pp.35-36, 平瀬・吉田訳，p.40.

イツの労働者との友好関係をあらためて呼びかけ，つぎのような言葉でしめくくった。「ルール地方における帝国主義的強盗行為が続くかぎり，わたしは抗議をやめません。被占領地域にひとりたりとも兵士が残っているかぎり，ドイツの労働者と仲よくするよう助言するでしょう。このような考えを広めようとする人びとの数は，日毎に増加しています・・・あなた方の下した有罪判決は，われわれを立ち止まらせることはできません[40]。」

この2日後，ドリオに国会の議席をあたえるために，セーヌ県パリ郊外区の10万人以上の有権者がかれに投票した。この地区では，有権者は共産党が候補者を立てた「労働者・農民連合」にきわめて好意的であり，同連合が9議席を獲得したのにたいして，保守派の「ブロック・ナショナル」，急進党と社会党とが結成した「カルテル・デ・ゴーシュ（左翼連合）」はそれぞれ5議席しか獲得できなかった[41]。

拘禁された若き選挙当選者を解放させるあらたなキャンペーンが始まった。5月15日，『ユマニテ』紙は，ヴァイアン・クーチュリエの筆によって，「ジャック・ドリオがいまも獄中にいる」という「スキャンダル」を告発した。翌日には，無署名の記事が「代議士ドリオは，いまも監禁されている。パリ郊外のプロレタリアは，かれを出所させなければならないのではないか」と問いかけた。毎日，『ユマニテ』紙は大赦を要求し，パリとその郊外ではこのための集会が開催された。ついに5月17日，ドリオの弁護士アンドレ・ベルトン――かれもまた共産党のあらたな選挙当選者であった――が法相に提出していた恩赦の訴えが共和国大統領によって署名され，ドリオは自由を取り戻した。マルセル・キャシャン，ポール・ヴァイアン・クーチュリエ，アンドレ・マルティ，ルノー・ジャンらとともに，ドリオはたちまち25人の共産党代議士の小さなグループの立役者のひとりとなった。

4. 共産党代議士として

ジャック・ドリオは，同僚議員たち以上に，コミンテルン第2回大会が採択し，共産党議員が「国会演壇を革命的に利用する」ことを指令した「議会主義にかんするテーゼ」――「すべての共産党代議士は，かれが他の立法府議員と共通の言葉を追い求める“立法府議員”ではなく，党の決定を実行するために敵のもとに送られた党のアジテーターであることを忘れてはならない。かれは無名の有権者大衆にたいしてではなく，共産党に責任を負うのである・・・共産党代議士は，ブルジョワジーとその公認の従僕どもである社会的愛国主義者，いかがわしい政治屋，そして共産党の敵対者全体の化けの皮をはがすために，また，第3インターナショナルの思想を広めるためにも，国会の演壇を利用しなければならない[42]」――を文字通りに遵守しようとした。

この時期のドリオは，コミンテルンの秘蔵っ子であると同時に，共産党の希望の星であった。かれは，ソヴィエト・ロシアの狂信的信奉者であるだけでなく，傑出した雄弁家でもあり，すばやく辛辣で容赦ない毒舌を浴びせて，議員たちの眉をひそめさせ，とりわけ右翼議員を怖がらせて，その嫌われ者となった。ドリオの国会での発言の多くは，その激しい攻撃的性格で目立っていたが，しかし，国会演壇の演説者にとってすぐれた能力となる時宜をえたエスプリと討論の相手に即座に言い返す当意即妙の才能でも目立っていた。ドリオは，野次や叫び声や，「けがらわしいロシア野郎」というよう

[40] *L'Avant-garde*, 16-31 mai 1924.

[41] 1924年5月に実施されたこの第1次世界大戦後2度目の総選挙では，全国的には「カルテル・デ・ゴーシュ（左翼連合）」が勝利した。

[42] Thèse XI, 4e partie, cit. par D. Wolf, *op. cit.*, pp.36-37，平瀬・吉田訳，p.41.

な侮辱の言葉が飛び交うなかで，かれの演説を休むことなく平然と続け，だれもかれを狼狽させることはできなかった。かれのエネルギー，もって生まれた雄弁家の才能は，議場の喧騒にすこしも負けなかった。しかし，同時に，かれは多量の資料を調査して演説を準備するという周到さをもそなえていた。

ドリオが国会演壇で最初の長い演説[43]をおこなったのは，1924 年 8 月 25 日未明の国会においてであり，首相エドゥアール・エリオが 1 年以内のルール地方からの軍事的撤退を約束した，ロンドン国際会議の締結協定にかんする討論のときであった。世論は，平和的解決のために首相が払った努力に概して好意的であった。ドリオは，この演説で，まず，往々にして，あらゆる論理に反して新しい国家をつくり，そのために，少数派の民族の抑圧とその騒擾を引き起こしているヴェルサイユ条約その他の戦後処理の諸条約を告発し，ドイツにおいても，熱狂的なナショナリズムの感情が広がり，ルール地方の占領がそれをいっそう強めていることを非難した。ドリオによれば，この占領は即刻止めるべきであり，社会党（SFIO）議員団に向かって，かれは「あなた方がルール地方占領を続けるのを承認するならば，あなた方もドイツにおけるナショナリズムの急激な高まりを持続させることに一役買い，ポワンカレ氏や，あなた方が連帯を組んでいるエリオ氏と同様に，それに責任を負わねばなりません」と非難を浴びせた。

つぎにドリオは，ドイツ賠償問題に議論を進め，これを解決するために 1924 年に採択されたドーズ案がドイツ国民に負わせる賠償を支払うには，ドイツはフランスとイギリスへの輸出を増加させねばならず，その結果，この両国の労働者階級は，新しい競争条件のために，低賃金で働かされ，失業に追いやられるであろうとのべている。さらに，ドイツの企業家たちは，賃金を引き下げ労働条件を悪化させることによって，賠償を支払うためにかれらが負担しなければならない利潤税の増加分を回収しようとするであろうから，ドイツの労働者階級もまた同様な運命に遭うであろうと主張している。

演壇を降りるまえに，ドリオは，「ドイツ人と仲よくしている占領軍の兵士たち」についてさらに数語をつけくわえ，首相エリオに向かって，「あえていうが，もしあなたがかれらをあまりに長くルール地方に残しておくならば，あなたの許可なしに，あなたの命令を待たずに，かれらは勝手にそこから出ていくでしょう」と語り，『官報』は，このドリオの演説にかんして，「極左のいくつかの議席で拍手喝采が起こり，多くの議席で抗議の声があがった」と書きとめている。最後に，予定議題にはなかったが，ドリオはフランスの植民地主義を激しく非難し，「あなた方はその植民地で 5900 万の人びとを抑圧し，もっとも憎むべき流儀でかれらを食いものにしています。わたしは共産党全体の名においていうが，これらの人びとには独立の権利があり，武器をとってこの独立を勝ち取る権利があります」とのべて演説を締めくくっている。

これにつづく数年間にドリオがおこなった国会演説の多くは，いずれも，多量の資料の徹底的な調査にもとづき，ボルシェヴィキ活動家の熱狂的信念と雄弁家の資質を遺憾なく示すものであったが，なかでも注目されるのは，1924 年 12 月 19 日の国会でおこなった 2 時間近く続いた――若年労働者の労働条件の改善を要求した――長い演説である。この演説は，まもなく共産党によって『労働法典と若年労働者の擁護』と題したパンフレットとして公刊された。共産党青年部が，徒弟と若年労働者の労働条件を正確に知るために，党員たちにたいしてアン

[43] 共産党は，同じ問題についてのキャシャンの演説とともに，このドリオの演説をパンフレットにして公表している。Marcel Cachin et Jacques Doriot, *Contre le plan Dawes et la trahison socialiste*, Librairie de *L'Humanité*, 1924.

ケートを開始していたが，演説にさいしてドリオがその分析を練り上げることができたのは，この調査にもとづいてであった。

ドリオがまず演説の冒頭で専念したのは，若年労働者の労働を規制する法律全体を綿密に批判することであった。これらの法律は大企業ではなく小企業を対象にしてつくられ，時代遅れで，経済社会の現実の発展から完全に取り残されたものであった。ドリオと共産党青年部の第1の目的は，すべての若年労働者たちにかれらの労働条件に適用される労働法典の諸条項を周知させることにあったが，さらに，ソ連であげられた成果に範を求めた共産党青年部とドリオは，とりわけ，18歳以下の青年たちにいっさいの労働を禁じ，初等技術学校で，社会主義が要求する「肉体的，精神的，知的知識」をかれらに習得させることからなる「青年層の労働の社会主義的再組織」を提案し，そして，このような最終的展望にいたるまでに，即時実施されるべきこととして，ドリオは2組の要求を提示した。すなわち，1）18歳以下のすべての青年のためには，最低賃金，1日6時間労働，週24時間の休息，年間4週間の有給休暇，成人と同一労働の場合の同一賃金等を要求し，2）見習いと若年労働者のためには，とりわけ18歳までの学校および職業教育の無償化，労働団体による見習い養成校の管理，個人協約から団体協約への変更，見習い期間の2年間への短縮を要求した。そして，共産党青年部はこれらの要求を成功させるために運動している唯一の組織であり，その工場細胞は「われわれの綱領を旗印として掲げた青年労働者たちの必要不可欠な武器」である，とドリオは演説を締めくくっている[44]。この演説は，あきらかに，ドリオの若い時代の記憶をよりどころにしたものであり，演説後，かれみずからそう告白している。

この演説の翌日，ドリオは，セーヌ・エ・オワーズ県の小さな村フレピヨンでマドレーヌ・ラフィノと結婚している。信心深った母親の願いで，かれは宗教的儀式にしたがって結婚式をあげ，共産党青年部の同僚たちを驚かせた。若い夫婦は1926年1月にパリ20区の2部屋の小さなアパルトマンに居を移し，この年，そこで長女が誕生し，1929年には次女が生まれている。1926年末には，ジャック・ドリオの母が，夫の死後，息子の家に同居するようになったが，孫娘たちに「メメ（おばあちゃん）」と呼ばれて熱愛された。

ドリオが代議士となり，国会で活動を始めるようになった頃は，フランス共産党青年部が大きく成長した時期であり，そのメンバーは，共産党の党員数が当時減少しつづけていたのとは反対に増加しつづけ，1925年末には1920年代のピークに達した[45]。ドリオはかれの組織のアイドルとなり，アンリ・バルベらの忠実な仲間たちに囲まれ，共産党内で否定しがたい人気を享受し，党にとってもっとも頼もしい力のひとつとみられていた。かれは，1924年6－7月に開かれたコミンテルン第5回大会のときには，その執行委員会の代行メンバーに選ばれ，翌年1月には，フランス共産党政治局に正式メンバーとしてはいった。コミンテルンの議長グレゴリー・ジノヴィエフは，1925年6月に，ドリオのめざましい成長ぶりを賞賛して，人びとの面前で，かれを「新しい世代の革命的指導者の典型的代表」と呼んだ[46]。この時期のドリオは，かれの主人であるコミンテルンの全幅的信頼をかちえた活動的な生徒であった。

5. 反植民地主義の闘士

この時期のドリオがとくに重要な役割を演じたのは，反植民地活動においてであった。もと

[44] R. Pellegrin, *op. cit*., pp.48-52; *L'Humanité*, 20 décembre 1924.

[45] *Entre deux Congrès. 4 années de l'Internationale Communiste des Jeunesses*, Bureau d'Editions, Paris, 1928, p.221.

[46] *L'Humanité*, 26 juin 1925.

もと，反植民地主義はソ連共産党の試金石のひとつであった。コミンテルン第2回大会は，「第3インターナショナルに属する各国すべての党は，植民地にたいして各国が約束した帝国主義的甘言を容赦なく暴き，言葉ではなくて行動で，植民地におけるすべての解放運動を支持し，本国の帝国主義者たちの植民地からの追放を要求し，植民地の労働者住民にたいする真に友好的な感情を本国の労働者たちの心に養い，本国の軍隊のなかに植民地住民にたいするあらゆる圧政に反対する行動を持続させなければならない」と決定していた。その後数年間，反植民地闘争は下火になっていたが，1924年には，ヨーロッパにおける共産主義革命の展望が遠のくなかで，植民地問題が最重要課題として再登場してきたのである。1924年7月，コミンテルン第5回大会は，フランス共産党に同党が取り組むべき任務を知らせてきた。工場細胞を基礎にした党の再組織にくわえて，植民地における「工作」の強化という任務であり，後者にかんしては，「植民地の独立」と「1925年をめざして，フランス資本主義の圧制に苦しむ民衆の会議を準備する」という2つのスローガンが決定された。

フランス共産党はただちに海外領土出身の活動家たちがリードしていた「植民地研究会」を「植民地中央委員会」という名称の下に再編成し，ドリオはそこできわめて重要な役割を演じた。1926年には，同委員会はその構成を一新したが，ドリオはその中心人物としてとどまった[47]。同委員会は急いで植民地問題についての記録，フランス植民地の各地域にかんするすべての出版物，研究や新聞記事を集めたが，ドリオがモロッコを対象にした国会演説で使用したのは，これらの記録であった。

ドリオがとりわけモロッコをとりあげたのは，1914 − 1918年の大戦後，国際連盟によってフランスの委任統治領とされたシリアとレバノンとともに，モロッコがフランス植民地のなかでとりわけ「危険地帯」であったからである。1921年夏，モロッコ北岸でのスペイン軍の敗退後，アブデル・クリムによって率いられたモロッコ山岳地帯の部族は「リフ連邦共和国」を樹立していた。3年間でスペイン軍の戦死者は1万2,000人にのぼり，軍隊の不満はスペイン本国でクーデタとプリモ・デ・リヴェーラ将軍の軍事独裁を招いた。プリモ・デ・リヴェーラはスペイン領モロッコの事実上の分割によって交渉の解決をはかろうとしたが，しかし，アブデル・クリムは植民地の完全独立を要求し，戦闘は続き，1924年9月初めには，スペイン軍はふたたび敗北した。

共産党と共産党青年部それぞれの名においてピエール・セマール（共産党書記長）とジャック・ドリオ（共産党青年部書記長）がアブデル・クリムに――「共産党国会議員団，共産党執行委員会，共産党青年部全国委員会は，スペイン帝国主義者にたいするモロッコ人民の輝かしい勝利をたたえ，その勇敢な指導者アブデル・クリムに祝意を表する。スペイン帝国主義にたいする決定的な勝利ののち，アブデル・クリムが，フランスおよびヨーロッパのプロレタリアートと連携して，モロッコの土地の完全な解放まで，フランス帝国主義者を含むすべての帝国主義者との戦いを続けることをわれわれは期待する。モロッコの独立万歳！植民地人民と世界のプロレタリアートの国際的戦い万歳！」という――祝電を打ったのは，まさしくスペイン軍敗北後の1924年9月10日のことであった。翌日『ユマニテ』紙が掲載したこの電報は，世論に大きな反響を呼んだ。つぎには，アブデル・クリムの運動のモロッコ南部，すなわちフランス領モロッコへの拡大が差し迫ってい

[47] Georges Oved, *La gauche française et le nationalisme marocain（1905-1955）*, thèse de doctorat d'Etat, Université de Paris I, pp.380-382.

るとおもわれたからである[48]。

電報が公表されてしばらく後の1924年9月30日，フランスとスペインとの共産党青年部は，共同で行動委員会を設立し，両国の「兵士である同志たち」にたいして，「フランスとスペインの革命の党，ルール地方においてドイツ軍兵士との友好関係を樹立した共産党青年部は，労働者，農民としてのあなた方の責務はモロッコの抑圧された人びとと友好関係を結ぶことである，とあなた方に告げる」と呼びかけ，両国保護領からの軍隊の撤退とその全面的独立を求めるマニフェストを発表した[49]。ドリオは，1925年1月4日，モロッコ問題にかんするかれの最初の国会演説で，その演説の最後に，この呼びかけを読み上げた。かれの演説は議場を憤激させ，「あなたの言葉は恥さらしだ」，「あなたは国会演壇の名誉をけがしている」，「これは紛れもない脱走教唆だ」，「ロシアに帰れ」など，演説を妨害しようとする多くの野次が乱れ飛んだ。

このドリオの演説の主要部分は，パリ・ネーデルランド銀行の行動を通して実現されている「フランス帝国主義」の支配を厳しく批判することに当てられていた。ドリオは，「このごうつくばりのパリバ（パリ・ネーデルランド銀行）」がおこなっているフランス保護領の大銀行，工業，商業の諸会社への出資を数えあげ，モロッコの商工業への資本輸出は10億フランをわずかに超えた額にすぎないのに，モロッコの征服と軍事的占領のために使われた支出額は，1907年以来，総額34億1900万フランにのぼっていると結論し，「このように，フランス国家は，金融会社との共謀などはいっさいないと主張しながらも，フランス国民の血を流し，かれらに10億フランの輸出のために30億フランを支払わせているのです。このモロッコの軍事行動以上に，金権家たちにたいする資本主義国家の隷従，そのへつらいをよく証明するものはありません」とのべている。このドリオの主張が正確な経済的，社会的分析にもとづいていたかは疑問である[50]が，かれの演説は国際的な反響を呼び，ピエール・セマールの証言によれば，フランスに反逆する部族の長やアブデル・クリムによってアラビア語に飜訳されたという[51]。

このあと数週間，ドリオはモスクワへの旅行準備に忙殺され，モスクワでは，1925年3月25日から4月6日まで，コミンテルン拡大執行委員会に出席した。ドリオが帰国したときには，『帝国主義者とモロッコ』と題して，かれの国会演説を公表したパンフレットが『ユマニテ』出版局から発行されていた[52]。モロッコではすでにアブデル・クリムが率いるリフ軍が，フランス領フェズとタザを脅かして，フランス軍と戦闘状態にはいっていた。5月27日，ドリオはモロッコ問題にかんする2度目の国会演説をおこなったが，その演説は前回以上の大きな反響を呼んだ。ドリオは，雑誌や新聞の記事を引用して，アブデル・クリムが1924年以来

[48] 20年後の1943年，フランス人民党（PPF）の宣伝活動代表モーリス・イヴァン・シカールが，リフ戦争（リフ共和国の軍隊とフランス軍との戦闘）への反対行動によってフランスの「国益」を裏切ったというドリオが受けた非難にたいして，ドリオの潔白を証明しようとして，アンリ・バルベの証言にもとづき，1924年9月10日の電報はピエール・セマールとコミンテルンから送られてきていた代表によって打たれたのであり，当時，遊説旅行中であったドリオはそれに関係していなかった，と主張している。Maurice-Ivan Sicard, *Doriot et la guerre du Rif*, Etudes et Documents, Paris,1943, pp.35-36. しかし，ドリオは，打電のさいにかれの名が使われたことにいっさい抗議せず，躊躇なく電文の発案者の資格を引き受け，1925年2月4日の国会演説のときには，多くの議員たちが憤慨する議場を前にして，この電報の内容を要約して読み上げている。

[49] *L'Avant-Garde*, 1er-15 octobre 1924.

[50] G. Oved, *op. cit*., p.1903.

[51] Pierre Sémard, *La guerre du Rif*, Librairie de *L'Humanité*, 1926, cit. par Jacques Fauvet, *Histoire du Parti communiste français*, Arthème Fayard, Paris, 1964, I, p.66.

[52] Jacques Doriot, *Les Impérialistes et le Maroc*, Librairie de *L'Humanité*, 1925; D. Wolf, *op. cit*., p.44，平瀬・吉田訳，p.49.

フランス政府と交渉を開始する意志を表明していることにくわしく言及し，多くの細かい事実をあげて，条約が定めた境界を越えて軍事行動を行使しているフランス軍の責任，銀行の主導的役割，フランスが和平交渉を即時開始する必要を強調し，和平を望まない「資本主義でおまけに社会民主主義の」フランス政府を激しく攻撃した。

そして，前線に赴いたフランス軍の兵士たちが「フランスの国内では，かれらと同じ労働者，農民がリフ共和国との即時和平を支持しているのに，フランス政府がその手続きを進めるのを拒否していることを知ったとき，かれらはあなた方が続けようと望んでいる戦争を終わらせる方法を探し求め，かつて黒海艦隊の水兵たちが，また，のちにルール地方の占領軍兵士たちが，かれらの目前にいる労働者たちに手を差し伸べたことを思い出すでありましょう。かれらはこのリフ地方の同じ戦線でスペイン軍の兵士たちがリフ人と打ち解けておしゃべりしたことを想い起こし，あなた方が敵と呼んでいる人びとに友好の手を差し伸べ，あなた方に和平を押しつけるでありましょう」とのべて，ドリオは演説を締めくくった。演説中，議場は野次と喧騒に包まれ，演説は野次と野次にたいする答弁と下院議長エリオ（当時エリオが下院議長に就任していた[53]）の介入とによってしばしば中断された。エリオがドリオの扇動的言辞の重大性を指摘し，ドリオにたいする譴責処分の適用を採択にかけようとしたとき，これに対抗して共産党議員団は「インターナショナル」を歌いはじめ，審議は名状しがたい喧騒のなかで一時停止された。議員たちの記憶にあるかぎり，下院がこれほどの大騒ぎを経験したことはかつてなかったという[54]。ドリオは右翼諸新聞の激しい攻撃キャンペーンの標的となり，軍隊の反乱を露骨にあおったとして非難された。当時の共産党指導者のひとりであったアンドレ・フェラは，1931 年に，フランス共産党の最初の公式的な歴史であるかれの著書のなかで，「党の議会活動，とりわけ 1925 年 2 月，5 月，6 月におけるドリオの下院での発言は，ブルジョワ議会主義の革命的利用の模範であり，模範でありつづけるだろう[55]」と書いている。

おそらく，当時の共産党の態度は，ドリオをとりわけ社会党（SFIO）から遠ざける結果を招いたにちがいない。社会党は「既時和平を」という共産党のスローガンを拒け，モロッコとフランスの全植民地からの軍隊の撤退という共産党の要求に異論を唱え，軍需予算に賛成投票するか投票を棄権するかしていた。そのため，共産党は社会党を「社会帝国主義者」，ブルジョワジーの共犯者と呼んで攻撃し，社会党とその指導者たちから下部党員を引き離し，共産党の陣営に引き寄せなければならないと考えていた。それが「統一戦線」という戦術の意味であった。「われわれはあなた方に“統一戦線”というわれわれの立場を繰り返しのべています。あなた方がそれを拒否することがわれわれには分かっています」とドリオは，1925 年 5 月 27 日に，下院の社会党議員たちに明言している。『ユマニテ』紙も，5 月 14 日に，社会党員の労働者たちにたいして「あなた方の指導者たちを告発し，かれらを見捨て，帝国主義者たちと強力な統一戦線によって対決するために，われわれとともにきたまえ」，「あなた方の指導者たちは，モロッコ戦争の軍需予算に反対投票し

[53] 1924 年 5 月の国会議員選挙によって「カルテル・デ・ゴーシュ（左翼連合）」が勝利し，フランソワ・マルサル内閣が成立したが，短命に終わり，6 月 15 日にエリオ内閣が成立した。同内閣は 1925 年 4 月 10 日に総辞職し，4 月 17 日に第 2 次パンルヴェ内閣が成立，エリオは下院議長に就任した。

[54] *Journal Officiel de la République Française, Débats parlementaires, Chambre des députés; L'Humanité*, 28 mai 1925; D. Wolf, *op. cit*., pp.44-45，平瀬・吉田訳，pp.49-50; J.-P. Brunet, *Jacques Doriot. Du communisme au fascisme, op. cit*., pp.56-57.

[55] André Ferrat, *Histoire du PCF*, Editions Gît-le-Cœur, Paris, 1931, p.146.

ようとはしなかった。かれらは卑劣にも棄権した」と書き，6月5日には，「社会党の労働者諸君，モロッコ人民を鎮圧しようとしているあなた方の指導者たちを許すな」と書いている[56]。

一方，コミンテルンの考えでは，「よい」社会党員と「悪い」社会党員，左翼の社会党員と右翼の社会党員を区別することは間違いであり，フランス共産党の若干の幹部がジロンスキーら社会党左派の少数派分子にたいして「あまりにも理解ある」態度を表明したことが，コミンテルンによって厳しく批判された。のちに――1930年に共産党書記長となる――モーリス・トレーズが，このコミンテルンの方針に忠実に，「統一戦線」戦術が社会党（SFIO）に提案された「仕方」を問題にして，「われわれは，社会党（SFIO）との連帯というスローガンを受け入れることを統一戦線の条件にするという，馬鹿げた間違いを犯した」とのべている[57]。

モーリス・トレーズは，1925年7月の第2週に，共産党内の下部で機能していた各種の行動委員会をまとめて組織された，モロッコ戦争反対行動中央委員会の推進者として任命された。共産党政治局がトレーズを選んだのは，7月13日の党中央委員会での説明によれば，かれが党の重要人物であったからではなく，むしろ反対に，かれが当時まだ党の政治局に属さず，著名な共産党員として知られてはいず，しかし，政治的センスはすぐれ，他の仕事のためにこのきわめて重要な仕事から気をそらすことなく，党のシンパたちからも浮き上がる心配なしに，党の指令を行動委員会に取り入れることのできる活動家だと判断されたからであった[58]。しかし，トレーズよりもはるかに反モロッコ戦争キャンペーンを活気づけ，その行動力を結集したのは，ドリオであった。フランスを縦横に走り回り，各地で多数の集会を開催したのは，かれであった[59]。とりわけ，アブデル・クリムにフランスの労働者の連帯と和平の意志を届ける「調査委員会」をモロッコに連れていくために指名されたのは，かれであった。

1925年6月16日の共産党中央委員会で，アンドレ・マルティの指揮下で，共産党，共産党青年部，在郷軍人共和連盟（ARAC），女性，そして社会党員の代表で構成された代表団をモロッコに送ることが発案され，この案は，7月4－5日のパリ地域の労働者会議（この会議はもともと共産党員の集会であったが，若干の左派社会党員と労働総同盟CGTのメンバーも参加していた）で熱狂的に承認された。しかし，実際には，この計画に伴う危険を考えて，名乗りをあげる候補者はすくなかったが，最終的には，代表団には共産党青年部を代表するドリオとアンリ・バルベのほか，女性，統一労働総同盟（CGTU），労働総同盟（CGT）の代表が含まれることになった。代表団は最初ボルドーからアルジェリア行きの船に乗り，そこからモロッコにはいるつもりであったが，船がみつからず，結局，8月29日，マルセイユで乗船し，何度も苦しい体験をしたのち，オランに到着した。この間，数十人の警官がかれらを尾行した。バルベは，のちにその回想録のなかで，「わたしは，一度ならず，ドリオの驚くべき勇気と冷静沈着な性格に驚いた・・・かれは，たとえひとりになっても，ひそかにモロッコにはいろうとしただろう」と書いている。ドリオは，アラブ人が外套の下に着るフード付きの袖なしの大きなガウンをまとってアラブ人に変装し，憲兵たちの監視の目を逃れたという[60]。

「ドリオ消える」と題した記事をすべての新

56) G. Oved, *op. cit* ., pp.570-573, 662.
57) *Archives de l'Institut de Recherches marxistes*, séries 91 et 93; G. Oved, *ibid*., pp.599-601; J.-P. Brunet, *Jacques Doriot. Du communisme au fascisme, op. cit*., pp.59-60.
58) *Archives de l'Institut de Recherches marxistes*, série 93; G. Oved, *ibid*., p.604.
59) G. Oved, *ibid*., pp.617-620.
60) H. Barbé, *op. cit*., pp.59-64; *L'Humanité*, 25, 27 et 28 septembre, 4 et 9 octobre 1925.

聞が掲載し，かれがアブデル・クリムのもとにいると断言した新聞もあった。ドリオは19日間警官の尾行をまき，1925年9月25日の『ユマニテ』紙は，「内相のデカたちの追跡にもかかわらず，政府の禁止にもかかわらず，代表団はその役割を果たし，ドリオは，かれによって代表される幾千もの労働者の名において行動委員会がかれに託した使命を果たすであろう」と吹聴した。ドリオはこの間どこにいたのか。はたしてモロッコにはいったのか。バルベは，ドリオがモロッコに，すくなくともモロッコ国境にたどり着いたことを示唆している。しかし，ドリオ自身は，帰国後，かれがモロッコまでいったことをきっぱりと否定している。かれのアフリカでの行動は，1925年には，重い有罪判決を受ける危険があり，かれはそれを避けたかったのであろう。また，ずっと後に，共産党を離党したあと，とりわけ第2次世界大戦中，ドリオはこのときのかれの反国家的行動のエピソードが忘れ去られるよう懸命になっている。実際には，ドリオがモロッコにいたことを証明するいかなる記録も証言も存在していない。

しばらく消息の途絶えていたドリオがアルジェリアの港オランにふたたび姿をあらわし，かれとともにフランスに戻った代表団は，かれらが下船したポール・ヴァンドル（ピレネーゾリアンタル県）で，ついでペルピニャンで共産党員たちの熱烈な歓迎を受けた。しかし，アンリ・バルベの証言を信じれば，この頃，高まりつつあるドリオの人気が共産党の若干の幹部たちの心をかき乱しはじめたようであった。バルベは，その回想録のなかで，当時，党の指導者のひとりであった女性幹部シュザンヌ・ジローを駆り立てた「ヒステリックな憎しみ」に言及し，彼女が「ドリオがモロッコで消えてくれさえすれば，われわれはかれを厄介払いすることができたのだが」と数人の友人にはっきり話したと主張し，また，パリに帰った代表団は，かれらが果たしてきた任務の報告会を組織しようとしたとき，共産党指導部の冷淡な態度，さらには敵意に遭った，と語っている。結局，報告会の開催は共産党青年部が引き受け，8,000人を前にしてドリオのおこなった演説は，聴衆をとりこにしたという[61]。ドリオは多くの機会でもてはやされ，1925年10月3日夜の反モロッコ戦争行動中央委員会の大集会では，かれは，この夜の集会の「目玉」として，多くの演説家たちの「取り」をつとめた[62]。しかし，この数日後の10月8日夜に開催された集会についての『ユマニテ』紙の報告では，「たいへん面白く，たいへん感動的な同志ドリオの大演説」はたった数行の要約で片づけられ，そこに共産党指導部内に生まれつつあったドリオにたいするうんざりした気分のきざしをみることができるかもしれない[63]。

モロッコでは，リフ軍との「友好関係の樹立」のために払われた努力は，ごくわずかの成果しかあげなかった。1925年9月29日の共産党中央委員会の席上で，ドリオは「友好関係が実現できたのは数例にとどまりました」とはっきりいっている[64]。それにもかかわらず，1926年2月20日のコミンテルン拡大執行委員会での席上，ジノヴィエフは，おそらく『ボルシェヴィズム手帖』に掲載されたピエール・セロールの論稿にもとづいてであろう，「今日までのいかなる戦争においてもけっしてみられなかったような大量の兵士の脱走があり，脱走兵たちすべてが相手側に移ってしまった例もあった」と主張することをためらわなかった[65]。

---

61) H. Barbé, *ibid*., pp.63-64.
62) *L'Humanité*, 4 octobre 1925.
63) J.-P. Brunet, *Jacques Doriot. Du communisme au fascisme, op. cit*., p.63.
64) *Archives de l'Institut de Recherches marxistes*, série 94; G. Oved, *op. cit*., p.773.
65) *Correspondance internationale*, 9 mars 1926, p.274（session du Comité executif élargi, 2e séance du 20 février 1926）, cit. par G. Oved, *ibid*., p.775. ピエール・セロール（共産党青年部組織担当）は，『ボルシェヴィズム手帖』（*Cahiers du bolchevisme*, 15 août 1926, pp.1660-1662）に寄せた論稿のなかで，3大隊が武器と荷物す

上記9月29日の党中央委員会の席上では，ドリオがリフ戦争にかんしていっさい非現実的な情報を語らなかったにもかかわらず，中央委員会は，共産党が10月12日にゼネストを決行するよう呼びかけることを決定し，このゼネストは「フランス帝国主義を粉砕する決定的要因となろう」と楽観的に結論した。たしかに，そのすこしまえの9月6日には，パリ地区の労働者たちがサン・ドニで共産党と共産党青年部が召集したデモに結集し，5,000人を超える人びとが，デモ隊を形成してサン・ドニの街を横切り，戸外で開かれた集会に参加し，集会ではピエール・セマールを含む6人の演説家が共産党の目標に従ってモロッコ戦争に反対してたたかう必要を強調した[66]。

1925年10月12日は，激しい対決の日となった。ストライキ自体の参加者はすくなく，『ユマニテ』紙はスト参加者は90万人であったと報じたが，実際には，最大で20万ないし30万人であった。しかし，共産党のデモ隊と警官隊との衝突は，パリ地域では，途方もなく激しいものになった。サン・ドニでは街を掌握しようとしたデモ隊と警察機動隊，とりわけ抜剣し，一度ならず火器を使用した機動憲兵隊とのあいだで乱闘が続き，警官や憲兵たちは労働組合センターや市役所に乱入して，ひどい乱暴をはたらいた。デモ隊側には多数の負傷者が出て，そのうちのひとりは片足切断の手術を受けなければならず，ピュトー市（セーヌ県，パリ近郊）では労働者がひとり殺害された。

この日，後世に名を残すようなドリオの行動がみられたのは，パリにおいてであった。当日午後，パリ19区で開かれた中央集会の進行を指揮したあと，ドリオは警官隊との大乱闘のさなかにあった共産党デモ隊の先頭に姿をあらわした。大勢の警官隊はデモ隊を追い散らそうとしたが，しかし，警官隊の命令に従う気持はドリオにもデモ隊員たちにもなかった。翌日以後の『ユマニテ』紙は，ドリオが，労働者の群衆とかれらを棍棒でなぐりつけていた警官隊とのあいだに割ってはいろうとしたが，10人から20人ばかりの警官の襲撃を受けてデモ隊から引き離され，統一労働総同盟（CGTU）の本部のあったグランジュ・オー・ベル街（パリ10区）辺りの壁に押しつけられて身動きできなくなり，そこでかれの氏名と身分をあきらかにして代議士の記章をみせたにもかかわらず，激しく乱暴され，打ちのめされて，かれの眼鏡はげんこつで壊され，そのあと警察署に連行されて，そこでまたもや痛めつけられた，と主張している。10年後，ドリュ・ラ・ロシェルは——もちろん，かれはその場に居合わせなかったのだが——この日のドリオの行動について言い伝えられてきた話をつぎのような文章で表現している。「そのとき，たったひとりで200人の警官に立ち向かい，カフェの一本脚の円卓を頭上で回転させ，群がるものどもを力強く肩までかつぎ上げて，完全に疲れ果てるまでは倒れようとしなかったドリオをみた人びとは，フランスにも男らしい政治家がすくなくともひとりはいることを知ったのである[67]。」10月12日のデモのなかには姿を見かけなかった他の共産党幹部たちとはちがって，ドリオは乱闘を嫌わなかった。かれは恐れを知らない人びとの一団の頭であり，リーダーであった。

満身創痍のまま警察署に連行されたドリオは，警官に暴行をはたらいたという容疑で拘束された。ドリオがひとりの巡査部長の下腹を1，2度足で蹴ったからであり，尿道の疾患をわずらっていたこの警官は入院しなければならなかった。これにたいして，10月16日，ドリオが検事総長に警官から受けた傷害にたいする

べてをもってリフ軍側に移ったようだと主張している。

66) J.-P. Brunet, *Saint-Denis la ville rouge, op. cit.*, pp.268-270; J.-P. Brunet, *Jacques Doriot. Du communisme au fascisme, op. cit.*, pp.64-65.

67) P. Drieu La Rochelle, *op. cit.*, p.20.

苦情を申し立てる一方で，共産党代議士の５人の代表がドリオの拘束に抗議するために内相のもとに赴いた。内相は，かれらに，ドリオの健康状態を考慮して，かれが即刻，刑務所内の病室に移され，10月19日に仮釈放の決定がとられるだろうと請け合った。10月19日夜，ドリオは仮釈放された。にもかかわらず，その後，訴訟の手続きが進められ，1926年1月20日，事件は軽罪裁判所に起訴された。入院した巡査部長は膀胱炎がもとでしばらく後に死亡したが，そのことに10月12日にかれが受けた暴行の影響を認めることはできなかった。しかし，結局，裁判所は，1月27日，ドリオにたいして8日間の禁錮刑と300フランの罰金刑を宣告した[68]。

のちの話になるが，第２次世界大戦勃発以前から，共産党はドリオが偽装した警察のスパイであったという噂を流し，それにこだまするかのごとく，戦後，ジャック・デュクロやフェルナン・グルニエなど共産党の主要幹部たちが，『ユマニテ』紙上やかれらの回想録のなかで，ドリオが警察のスパイであったと主張するようになる[69]が，かれらの論拠のすべては，まさしく，この1925年10月12日のデモのときの事件にあった。このとき，「ドリオは，ブルジョワジーがその時がきたと考えたときには，共産党を攻撃すると約束することによって，釈放してもらった」（グルニエ）のであり，ドリオはこの事件後「義理に縛られる」ようになったとおもわれる（デュクロ）と主張されたのである。しかし，このような仮説はいかなる客観的根拠にももとづいてはいず，それを証明するような手がかりはどこにもみつかってはいない[70]。

フランス植民地のもうひとつの「危険地帯[71]」は，1920年に国際連盟がフランスの委任統治領としたシリアとレバノンであった。1925年７月，状況は突然悪化し，シリア南部の山岳地帯のイスラム教徒，ドルーズ族が蜂起し，反乱はダマスカスに達した。これにたいしてフランスの行政長官サライユ将軍は激しい弾圧を加え，ダマスカス市街を爆撃させた。結局，10月30日，パンルヴェ内閣はサライユ将軍を呼び戻し，行政長官を交代させたが，ドリオが下院でシリア問題にかんして長い演説をおこなったのは，そのすこし後の12月20日であった。共産党はその演説を『シリアをシリア人の手に』と題したパンフレットとして刊行した[72]が，それはドリオが1925年1月28日の『ユマニテ』紙に発表していた論説のタイトルであった。

ドリオの演説は，これまで同様，よく調査された資料にもとづいていたが，シリアにおけるフランスの介入を略述し，その動機――フランスの堅固な軍事ならびに海運基地の建設，とりわけパリ・ネーデルランド銀行を筆頭とする多くの金融グループの保護――を告発していた。ドリオは，国際連盟がこの地域の統治権をフランスとイタリアに委任したのは，実際には，これら列強の「帝国主義的野望を平和主義のソースで調理するという目的」を隠すためであり，「国際連盟は，今日，かつてなく，それが委任統治権の下に，すなわち大国の監督と保護の下に置いた小国の人びとに無関心であることを示している」とのべて，国際連盟を批判している。ついで，かれは歴代のフランス政府が任命した代々の行政長官が没頭してきた弾圧

68) *Archives de la préfecture de police de Paris*, B/a 341, dossier 8310-1.

69) *L'Humanité*, 23 septembre 1949; Jacques Duclos, *Mémoires*, Arthème Fayard, Paris, 1968, Ⅱ, p.241; Fernand Grenier, *Ce bonheur-là*, Editions sociales, Paris, 1974, p.202.

70) J.-P. Brunet, *Jacques Doriot. Du communisme au fascisme, op. cit*., pp.66-67; Jean-Paul Brunet, Les indicateurs de police, mode d'emploi, *Histoire*, no.78, mai 1985.

71) 1924年秋から1925年春にかけてフランス軍との武装闘争に発展したモロッコ紛争は，1926年５月にリフ軍が降伏し，アブデル・クリムが流刑に処せられるまで続いた。

72) Jacques Doriot, *La Syrie aux Syriens*! Discours prononcé par Doriot à la Chambre des députés, le 21 décembre 1925, Librairie de *L'Humanité*, 1926.

の「誤り」と「犯罪」を厳しく告発し，「国会全体の名において，この許しがたい圧政に抗議する」とのべている。さらに，かれは「シリア人たちは，かれらの兄弟であるフランスの兵士たちと戦おうなどとは望んでいない。われわれは，フランスの兵士たちにも，シリアの兵士たちと同様に行動するようにと告げる・・・わたしには，フランスの兵士たちにたいして，かれらが殺害されるがままにならず，シリア人と仲よくするようにいう権利があると考えています・・・われわれが勧めるようふるまうことによって，かれらは，戦争を望まない労働者ならびに農民のフランスの真の顔をみせるのです」と主張している。

こうして，ドリオは，シリアから撤兵し，その独立を認めることを要求することによって，あらためて，コミンテルンとボルシェヴィズムの完全な活動家としての態度を示したのである。おそらく，ドリオは，その脳裡に，植民地解放の主張の背後に，アラビア半島を揺るがす独立運動にくわえて，世界革命への前途を約束する中東諸国の体制不安定化の可能性を思い浮かべていたのであろう。

以上のことから判断して，1925年にモロッコ問題を論じたときのドリオのなかにすでにナショナリズムの感情やコミンテルンへの疑念のきざしが検知できると信じる（ディーター・ヴォルフ[73]）のは，誤りであろうとおもわれる。ドリオとバルベは，1925年末に，リフ戦争に反対するフランス共産党青年部の活動をコミンテルン青年部に報告するためにモスクワに赴き，コミンテルン青年部の幹部たちからの賛辞を受けている。そのすこし後に，コミンテルン執行委員会に報告を提出したドリオは，その議長ジノヴィエフから賞賛され，バルベの証言を信じるならば，ジノヴィエフは「ついに本物のボルシェヴィキがフランスに生まれた」とまでいったという[74]。

[73] ディーター・ヴォルフは，のちのアンリ・バルベなどのにわかに全面的には信用できない証言にもとづいて，アブデル・クリムとの戦争が開始されたあと，「ドリオは“連帯”とか“撤退とモロッコの独立”とかいうようなスローガンを断念し，たんに“即時の講和締結”の呼びかけだけを認めた。いいかえれば，この時期，ドリオはモスクワの指令に盲目的に従ったかどうかは疑わしい・・・また，かれのうちに，すでに，ある種のナショナリズムの感情を探知することができる」と書いている。D. Wolf, *op. cit*., p.53, 平瀬・吉田訳，pp.57-58; J.-P. Brunet, *Jacques Doriot. Du communisme au fascisme, op. cit*., pp.69-70.

[74] H. Barbé, *op. cit*., p.70. このアンリ・バルベの証言は，ジノヴィエフのドリオ賞賛を伝えた1925年6月26日の『ユマニテ』紙の記事（注46）参照）を考えれば，信用性は低くないであろう。

Dérive fasciste.
Jacques Doriot et le Parti populaire français.1

Yukiharu Takeoka

L'histoire politique de la France des années 1930 était marquée par l'opposition violente entre la gauche et la droite. Dans cette situation, il existait un certain nombre des hommes qui sont passés de la gauche à la droite et dont l'exemple le plus représentant était sans doute Jacques Doriot. Doriot, qui occupait au début des années 1930 une place importante au sein du Parti communiste, se retrouva à peine dix ans plus tard parmi les partisans les plus actifs de l'ordre nouveau hitlérien. Comment expliquer qu'il soit amené, d'une gauche extrêmement active qui était, dès 1934, un pionnier de l'antifascisme, à la collaboration avec Hitler?

Pour Zeev Sternhell, historien israélite, la révision du marxisme est l'explication clé qui pourra faire comprendre le glissement des hommes de gauche vers le fascisme. Mais cette démonstration de Sternhell ne peut s'appliquer au cas de Doriot. Dans cet article, nous nous sommes efforcés de préciser historiquement ses itinéraires du communisme au fascisme et de montrer les conditions qui susciteraient un tel passage.

Classification JEL: N44
Mots-clés: Doriot, communisme, fascisme